香川県教育委員会４月定例会会議録

１．開催日時　　令和２年４月２２日（水）
　　開　会　　午前　９時３０分
　　閉　会　　午前　９時５８分

２．開催場所　　教育委員室

３．教育委員会出席者の氏名

教 育 長	工　代　祐　司
委　　員	藤　村　育　雄
委　　員	小 坂 真 智 子
委　　員	平　野　美　紀
委　　員	槙　田　　實
委　　員	藤　澤　　茜

４．教育長及び委員以外の出席者

副教育長	小　川　秀　樹
教育次長兼政策調整監	井　元　多　恵
教育次長	小　柳　和　代
総務課長	白　井　道　代
義務教育課長	原　田　　智
高校教育課長	金　子　達　雄
保健体育課長	宮　滝　寛　己
生涯学習・文化財課長	渡　邊　智　子
政策主幹兼総務課副課長	福　家　啓　充
高校教育課長補佐	吉　田　　稔
高校教育課長補佐	小　山　圭　二
高校教育課長補佐	橋　本　和　之
高校教育課主任指導主事	亀　田　龍　輔
高校教育課主任指導主事	川　東　芳　文
高校教育課主任指導主事	住　野　正　和
特別支援教育課主任指導主事	鳥 井 口　　隆
総務課主任	大 原 裕 次 郎
高校教育課主任	三　谷　　進
高校教育課指導主事	水　野　伸　吾

傍聴人　無し

５．会議録の承認

３月２２日に開催した臨時会の会議録署名委員の藤村委員から、同臨時会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

３月２７日に開催した定例会の会議録署名委員の平野委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

６．非公開案件の決定

教育長から、本日の議題については、非公開とすべき案件がない旨、発言。

７．議　　案

○議案第１号　期末手当及び勤勉手当に関する規則の一部改正について

総務課長から、令和元年１１月香川県議会定例会において議決された「公立学校職員の給与に関する条例及び一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例」が施行されることに伴い、所要の改正を行うことについて諮る旨、説明。

【質疑】

＜藤村委員＞成績区分の割合は決まっているのか。また、成績を評価する側において、所属や学校間で評価に差が生じないようにするために、どのような方法をとっているのか。

＜総務課長＞成績区分の割合について、事務局では「特に優秀」が全体の５パーセント程度、「優秀」が２５パーセント程度となっている。評価については上司が行っており、事務局であれば課長補佐が第一次評価者、課長が最終評価者、調整者が教育次長となっている。

＜高校教育課長＞学校についても、「特に優秀」と「優秀」の割合は、事務局とほぼ同じである。評価については、第一次評価者が教頭、最終評価者が校長、調整者が教育委員会となっている。

＜藤村委員＞「良好でない」と評価された者はどうなのか。

＜総務課長＞「良好でない」と評価される職員の割合については、特に定めていない。各所属において職員の勤務状況等の評価を行い、評価が低い職員に「良好でない」を適用することとなっている。

＜藤村委員＞教職員に「やる気」を持たせるために、評価制度を設けていると考えるが、優秀と評価される者が固定化される傾向がどうしても強くなっているのではないかと思う。やはりみんなが「やる気」を持ってもらうためにも、固定化した評価ではなく、頑張ったことが評価される仕組みも必要だと思うので、よろしくお願いしたい。

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

８．その他事項

○その他事項１　令和２年３月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況について

高校教育課長から、令和２年３月の香川県公立高等学校及び特別支援学校高等部卒業者の就職内定状況について説明。

【質疑・意見交換】

＜小坂委員＞公立高校の就職内定率で、県内が減り、県外が増えているとの説明があったが、その理由として何か思い当たるものはあるのか。

＜高校教育課職員＞ここのところ、少しずつ県外で就職する人数が増えてきている状況にあるが、これは県外の大企業からの求人があると、その企業の名前に影響されて就職することがあるのではないかとの話を聞いている。ただ、今年に限っては、県外で公務員試験が第三次募集まで実施されたようで、東京や大阪の大都市では２月、３月まで採用を続けていたこともあり、それらの試験に合格して就職したという事情もある。

＜藤村委員＞県立特別支援学校の令和元年度３月末の就職内定率については、括弧内の数字も同じであるが、これは今年度、就労継続支援Ａ型事業所に就職した生徒はいなかったということか。

＜特別支援教育課職員＞そうである。今年度は就職希望者が５８名いたが、就労継続支援Ａ型事業所に就職した生徒はいない。

＜藤澤委員＞定時制課程の就職内定率が下がった理由を説明してもらいたい。

＜高校教育課職員＞定時制課程の就職内定率については、生徒数が少なく分母が小さいので、毎年度の率の変動幅が大きくなっているが、毎年度８０パーセント以上で推移している。なお、内定が決まらなかった生徒が８名については、それぞれの事情から在学中に就職活動の準備が十分にできなかったため、卒業後にハローワークを通じて就職先を探しているという状況である。

○その他事項２　令和２年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について

高校教育課長から、令和２年度公立高等学校入学者選抜学力検査の採点結果及びその概況について説明。

【質疑・意見交換】

＜藤村委員＞得点分布について、通常は山型になると思うが、特に英語はそのような形になっていない。これは、どのように分析して、どのように読み解けるのか。

＜高校教育課職員＞毎回の学力検査において、点数の分布がほぼ同じということから、ヒアリング、長文、単語等の穴埋め問題など様々なジャンルから出題されているが、苦手な問題と得意な問題が分散しているのではないかと思う。

＜藤村委員＞ここを重点的に質問しているのは、香川県では英語教育に特に力を入れているにもかかわらず、この３年間の得点分布の状況にあまり変化が見られないことに、疑問を感じているからである。

＜小柳教育次長＞英語という教科は比較的、得意とする生徒は継続的に高得点が維持できる一方で、苦手意識がありなかなか点数が伸びないという層の生徒がいる。また、普段の定期テストでは、必ず得点できる基礎的な問題や記憶しておけばできる問題に加え、活用や応用力を問う問題で構成されているが、高校入試の英語については、香川県だけでなく全国的に見ても記憶しておけば解けるような問題は少なく、「読む」「聞く」「書く」を、それぞれ単独ではなく総合的に問う問題が出題されるため、英語が苦手な生徒にとっては非常に解くのが難しいという傾向になっている。

＜教育長＞総合力を問う問題が出される傾向にあるとしても、このような試験問題の得点分布は本来山型になるのが理想だと思うので、今後分析をお願いする。

＜高校教育課長＞了解した。

＜教育長＞「受検生へのメッセージ」は、学校や教員、受検生に対してどのように取り扱われているものなのか。

＜高校教育課職員＞各中学校に送付しており、中学校でその内容が生徒に伝えられている。

＜教育長＞新たな受検生へのメッセージという解釈でよいか。

＜高校教育課職員＞そうである。